

## はじめに

数理分子生命理学専攻は、生命現象に焦点を当て、生命科学と数理科学の融合による新しい学問領域の創成と教育を目的として平成11年4月に全国に先駆けて設置されました。本専攻は生物系、化学系の実験グループと数理系の理論グループから構成され、生命現象に対し分子、細胞、個体のそれぞれのレベルでの実験的研究と、計算機シミュレーションや理論的研究によって、生命現象を多面的かつ統合的に解明していくことを目標にしています。また、生命を統合的に研究していくと同時に、関係するいろいろな考え方や方法論を身に付けた若い人材を育てることも目的の一つです。

本専攻は設置から4年を経過し、これまでの研究と教育の成果を総括するために、今回「生命科学の新展開－生命と数理の融合－」と題して第1回公開シンポジウムを開催することになりました。本シンポジウムを通じて生命科学と数理科学の相互理解が一層深まり、新たな展開が生まれることを期待しています。

平成15年8月

専攻長 太田 隆夫